

日本企業で活躍する
JET OB・OG

今も活きる JET の経験

三菱商事株式会社 広報部 ミーク・ケビン

私は、県立高校の ALT として 3 年間、そして国際交流課の CIR 兼取りまとめ団体アドバイザー (PA) として 2 年間、宮城県で勤務しました。その経験を活かし、現在私は三菱商事株式会社広報部と人事部に所属しており、海外向けの各種制作物の企画・制作や海外スタッフ向けの研修の講師などを行っています。ALT や CIR 兼 PA として、企画の対外的な説明・宣伝、母国ジャマイカの紹介、情報収集・分析・交渉、そして研修の講師としてプレゼンテーションを行ってきましたが、現在の広報の業務は、JET プログラムの業務と似ており、JET プログラムの業務の延長線上にあると言えるかもしれません。

JET プログラムは、外国語教育や国際交流の選択肢が増える中で、30 年もの間続いており、持続力のあるプログラムだと思います。30 年前と比較して、日本と世界各国との交流はだいぶ進んでいますが、日系企業の海外展開を含め、世界とどう関わっていくかはまだ課題が多いと感じています。JET プログラム参加者は、草の根の異文化理解に貢献していますが、終了後も日本関連組織や日系企業、そして配置された地域の役に立てる場はいくつもあるという観点でも、JET プログ

ラムは、今後も大事な役割を果たしていくと思います。

今後は、連結グローバルベースで従業員 7 万人、グループ会社 1,000 社を超える大企業の中で、広報や人事に限らず、コーポレート機能に関する知識を深め、海外スタッフと本社スタッフの架け橋になって、より一層親密な関係を築くとともに、海外スタッフの日本の理解促進に貢献したいと思っています。



プロフィール



ミーク・ケビン

ジャマイカ・スパニッシュタウン出身。西インド諸島大学とチリ大学院にて国際関係を専攻し、卒業後、国連開発計画で勤務した。JET プログラムをきっかけに 2003 年に来日し、宮城県で ALT・CIR として活躍。その後、複数の職務経験を経て、2012 年に三菱商事株式会社に入社した。現在は広報部と人事部の一員として、海外向けの広報や研修の講師など幅広く活躍している。

人事担当者から一言

人事部 阿部ゆかり

当社としては、一定レベルの日本語能力・英語能力に裏打ちされたコミュニケーション能力と、グローバルな視点でのアイデアを持ち、未知の分野に於いても積極的に取り組むことができる人材を求めていました。

JET プログラムを経て、当社に採用となったミークは、これらの条件を満たしており、JET OB として優秀という評判のとおり、彼の活躍により、海外スタッフと本店との意見交換の機会が増え、海外各拠点から連絡が容易となるなど、当社と海外各拠点との関係強化に貢献しています。また、世界各国の担当者を集めた



会議のコーディネーターを担当し、難易度の高い議論の取りまとめも柔軟に対応しただけでなく、各担当者とは良好な関係を構築してきました。これは、JET プログラムにおいて多様な人と接してきたこと、異文化面での苦労を乗り越えたことで、柔軟かつ前向きな思考を持ち合わせていること、そしてリーダー的役割を担っていた経験が活かしているのだと感じています。

今後ミークには、対外広報のグローバル対応強化が当社の課題であるので、当社の分かりにくい業態を対外的にどうわかりやすく伝えていくかという戦略の立案及び実行、そして海外メディアとの関係強化に期待しています。また、社内的には、海外各地域スタッフの研修あるいは地域間の関係構築に関して、課題の分析や問題提起をしてもらい、より大きな役割を果たすことを期待しています。